

～確かな未来への希望を切り開く～

特別×対談

コロナ禍対策の鍵は、
国民から信頼される政治

現在、環境副大臣である笹川博義衆議院議員と、公明党群馬県本部代表 福重隆浩群馬県議会議員。群馬県議会議員として5年間ともに県政に尽力した盟友の二人が、コロナ禍の今、政治のあるべき姿について本音で語り合う。

環境副大臣・衆議院議員

ささがわ 博義

公明党群馬県本部代表・群馬県議会議員

福重 隆浩

国民の声を政治に反映 —

福重 笹川さんは一年前の自民党総裁選の時、自民党総務会で二階幹事長に対して、党員の声を反映させることが大切だとして、都道府県連別の党員投票を実施し、党本部は協力をすべきと強く主張されていましたね。

笹川 私もメンバーの一人ですが、現在は、同期の福田達夫代議士を中心とした若手議員により執行部に対して様々な提言をしております。国民の声をしっかりと受け止め、政治に反映させていく、「国民のための政治」が基本だと考えるからです。

福重 その通りだと思います。公明党は結党以来、「1対1」の対話が政治の基本であると捉え、地域に根を張り、生活現場の生の声をキャッチすることを心掛けてきました。「大衆とともに」という不変の立党精神を体現することは公明党議員の使命だと考えています。

地域の発展のために —

笹川 福重さんは、私の群馬県議会議員の1期先輩ですが、「ぐーちょきパスポート」や「中学3年までの医療費の無料化」「ドクターヘリ」の導入などを主導されました。中でも印象深いのが「中高入学式を別の日に」を主張され、実現されたことです。日頃より「対話」を実践されていなければ、中学生・高校生を持つ保護者の気持ちを知ることはできません。

「対話」から生まれる「国民のための政治」

福重

ありがとうございます。群馬3区においても笹川さんと自治体、公明党の協力により実現したことがありますね。

笹川

そうですね。特に北関東道太田強戸スマートインターチェンジは、私も公明党の皆さんと一緒に太田大臣へ要望させて頂いて、その後のフォロー も行いましたね。まさに、地元の首長と公明党の皆さんとの協力で実現できたことだと思います。

福重

古い話になりますが、公明党が目指し、1998年に保険適用された臍帯血(胎盤とさい帯(へその緒)の中にある血液)の導入にも笹川さんには協力をいただきました。

笹川

当時、白血病の治療は骨髄移植が主流でしたが、どうしてもドナーの方の都合で患者さんが必要な時に間に合わないという事例がありました。公明党は、白血病患者にとって臍帯血移植が必要であるとの思いから保険適用、臍帯血バンクの設立を推進し、そこに日赤や私の関係する団体が関わり実現しました。多くの方の命を救う活動に携われたことは本当に良かった。ちなみに、群馬県の臍帯血提供の第一号は私の妻です(長男出産時)。



当時の太田国土交通大臣に要望しました。
太田大臣は公明党であり、群馬県の公明党議員にご尽力をいただきました。

コロナ禍の教訓を未来への希望につなげる



命と経済の両方を守る — これらの溝を補うことが政治の役割

福重 世界中を巻き込む未曾有の非常事態であるコロナ禍の中、政治に対する国民の信頼が揺らいでいます。自民党総裁選挙も行われますが、笹川さんはこれらのことについてどう捉えられていますか。

笹川 世界中の状況を踏まえ客観的に見て、菅総理はコロナ対策にしっかりと取り組まれたと思います。しかし、コロナ禍は、年齢や職業などによってその影響は大きく異なります。「命を守る対策」と「経済を守る対策」は相反する部分が多いですが、国民生活においては両方が大切であり、そこを補い、両立をめざしていくことが政治の役割です。それを推し進めるためには、まず国民の理解と協力が大切。「対話」が十分でなく、「伝える」ばかりで、「伝わる」メッセージを国民に発信することが出来なかった、猛省すべき点です。

福重 そうですね。我が党においても多くのご意見をいただいております。たとえ政策が正しかったとしても、国民の理解と協力が得られなければ政策を前に進めることはできません。ましてや、コロナ禍は未曾有の事態であり、未知なるウイルスとの正解の見えない戦いですから尚更ですね。私たち公明党も、一層の「対話」を重ねてまいりたいと思います。

笹川 アフターコロナ、ウイズコロナを含めて、コロナ禍を克服するためには、何よりもまず「国民から信頼される政治」でなければなりませんね。

福重 その通りです。自民党と公明党は政権与党として長い期間、協力をしておりますが、別々の政党であり、すべての政策が一致しているわけではありません。しかし、だからこそ、両党が真剣に「対話」を重ねている、結果として幅広い声を反映する政策が実現できていると考えています。このコロナ禍においても自公連立政権だからこそできることが多くあります。信頼される政治を取り戻し、コロナ禍を克服し、一日も早く日常を取り戻せるよう、ともに全力で取り組んでまいりたいと思います。

笹川 現在、私は環境副大臣として、「2050年カーボンニュートラル(脱炭素社会への移行)」に向け取り組んでおりますが、地球温暖化の影響で、氷河や氷土の融解による未知のウイルス発生の可能性が指摘されています。喫緊の課題はコロナ禍の克服ですが、同時に私たちには、地球環境や社会構造が大きく変化する中、コロナ禍の経験と教訓から学び、変化に対応できる社会をつくる責任があります。「未来への希望」がもてる社会を切り開いていくことが、政治家としての私の使命だと考えています。

福重 国民一人一人が、未来に対して不安でなく、「確かな希望」をもてる社会をつくること。私たちの責任は大きいです。

福重
隆浩

昭和37年5月3日生まれ
平成15年
群馬県議会議員初当選(5期)
公明党地方議会局次長
公明党群馬県本部代表
妻、子の3人家族
高崎市在住



※マスク、消毒、ソーシャルディスタンス等、新型コロナウイルス感染症予防に十分配慮して取材をさせていただきました。

笹川
博義

昭和41年8月29日生まれ
平成19年
群馬県議会議員初当選(2期)
平成24年
衆議院議員初当選(現在3期目)
令和2年、環境副大臣(現在に至る)
妻、一男二女の5人家族
太田市在住

公明党群馬県本部

〒370-0069 群馬県高崎市飯塚町457-2 TEL.027-370-5650

〈福重隆浩 オフィシャルWEBサイト〉
<https://www.komei.or.jp/km/fukushige-takahiro/>



自由民主党群馬県第三選挙区支部

〒373-0818 太田市小舞木町270-1 TEL.0276-46-7424
〒374-0024 館林市本町四丁目15-30 TEL.0276-55-6244

〈笹川博義 オフィシャルWEBサイト〉
<https://www.sasagawa-hiroyoshi.com/>

